

登録コード	L1234600	開講年度	2026				
担当教員	濱崎 友絵			副担当			
授業科目	芸術コミュニケーション基幹演習						
英文授業名	Art Communication: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・2時限
講義室	人文311実習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができるようになる。			
	【2023年度以降加わらぬ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、多様な文化や社会を理解するための力を身につけることができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	松本の音／音楽文化を多角的に検討する授業である。2026年度、松本市は「東アジア文化都市」に選定され、日中韓の代表都市と連携した文化交流事業が展開される予定である。本授業はこの国際的枠組みを視野に入れつつ、文献講読、フィールドワーク、映像制作等の実践を通して松本市の音楽文化を再検討、考察するとともに、音楽を「都市の自己表象」として捉え直す。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 音楽と都市 第3回 「創られた伝統」概念の読解 第4回 サウンドスケープ理論と都市の音 第5回 松本市の文化政策と音楽都市イメージ 第6回 セイジ・オザワ 松本フェスティバルの歴史と松本 第7回 松本の民俗芸能・環境音の検討 第8回 グループワーク（１）テーマ検討 第9回 グループワーク（２）フィールドワーク設計 第10回 グループワーク（３）フィールドワーク実施 第11回 データ整理・音素材の分析 第11回 映像構成、多言語説明文作成（１）グループ検討 第12回 映像構成、多言語説明文作成（２）グループ発表 第13回 発表、上映会 第14回 再分析、検討 第15回 総括 授業の進捗状況によって、内容に多少の変更が生じる場合がある。						
成績評価の方法	発表（50％）と記録作成（レポート、50％）						
成績評価の基準	授業の目的を理解し活動できていれば「水準にある」、リサーチに積極的にかわり、課題や問題解決を提示、実施できれば「やや上にある」、リーダーシップを発揮し取り組んでいれば「かなり上にある」、これらをすべて踏まえた上で、自分なりの主体的な活動と思考がともなっていれば「卓越している」と評価する。						
事前事後学習の内容	企画に関連する事前事後調査（文献、フィールド調査等）が必要となる。東アジア文化都市関連の多様なイベントへの積極的な参加も求める。						
履修上の注意	なお本講義は、ミーティングなどを含め、週末を含めた授業時間外の作業が求められることになる。その際の交通費等、必要経費は各自の負担となる。 個人、グループ発表での無断欠席は認められないので留意されたい。なお、履修希望学生が多い場合は抽選（ないし選考）をする場合がある。						
質問、相談への対応	授業終了後、随時。来室可。オフィスアワーは木曜日の12:40～13:20（新棟305）。事前にメールでアポイントを。t-hamazaki@shinshu-u.ac.jp						
教科書	特になし。必要な資料は配布する。						
参考書	初回の授業で紹介する。						